

いんです。

でも、そうじゃなくて「日本の今なくなりつつある文化を残さなきゃいけない」ということにフォーカスすると、ここで何かをすることにはやりがいを感じています。自分の付加価値をここでどうにか上げていかなきゃいけないと思うからやりがいをもって働いています。

「文化を継ぐお店」にする為に、各作家さんの活躍の場を創り出せたらとも思っています。あとは、この経験をもとに同じようにお手伝いできる店があったらぜひ協力させていただきたいので、そういう経験につながることもやりがいですね。

## 「文化を守ること」と「変わり続けること」の両立

神保町は古書店や喫茶店などたくさんの老舗があります。都会の中心にありながらも、どこか懐かしさを覚えるような歴史の詰まった街です。そんな神保町でも大和屋履物店さんは特に歴史があり、長きにわたって神保町の人々に愛されてきました。リニューアルが決まると、お客様から「あの看板だけは残してほしい。あれは私の中の景色になっているんです」というメッセージを頂いたそうです。



地域の方々にとっては「街の景色」になっている風情あふれる看板

大和屋さんがどのように神保町で受け入れられてきたのか。また、なぜリニューアルされたのかについて伺いました。

Q1. 「これまでは神保町でどのようにお店を営んでこられたのですか？」

履物屋が今までの世の中でどういうニーズがあったかと言われたらば、おそらく

は「街の履物屋」でしょう。昔はインターネットもなければ、デパート、百貨店、スーパーもなかったので、それぞれの町のいろんな場所に履物屋があって、そこで地域の方は履物を買っていました。実は、過去には近所にライバル店があって、あちらが下駄を10段積んだら、こっちは12段積む。そういう戦いをしていたそうです(笑)。だからこそ、地元の方々に対して、「履物なら何でも揃う店」として町の間が履けるものを置いておこうという営業をしていました。

あと、私が継ぐ前の大和屋で1番印象に残っているのは、街の間がここに集まっておしゃべりしているシーンがすごい多かったことです。今は、コロナの影響もあって難しいですが、「街の履物屋」としての地元の間が集まれる場所であり続けたいです。

Q2. 「今年の5月にリニューアルされましたが、なぜリニューアルに至ったのですか？」

大和屋として、ずっと改装したい想いがあったようです。下駄に加えて、下駄屋で生まれた染色作家の「小倉充子」という存在があり、しっかりと作品の魅力を伝えられるようなお店にしたいという想いがありました。しかし、家族だけではそれらを運営していくだけの人材がいなかったため、二の足を踏んでいたようでした。前述のとおり、そこに脱サラを目論む私が現れたので、一緒になって1年半かけてリニューアルの計画を立て、今年の5月にリニューアルオープンすることができました。



型染作家 小倉充子さん

1967年 創業明治17年より三代続く神田神保町の履物屋「大和屋履物店」（町内での通称は「角の下駄屋」）に生まれる。

1994年 東京藝術大学 大学院美術研究科デザイン専攻修了。その後、染色家・西 耕三郎氏の下で江戸型染を学ぶ。

1997年 「小倉染色図案工房」として独立。きもの、手ぬぐい、下駄の花緒、暖簾など、多様な型染め作品を制作する。

図案、型彫り、染めまで、ほぼ全ての工程を一貫して手がける。

（出典：[小倉染色図案工房HP](#)）

Q3. 「リニューアルにあたって、工夫されたこと、こだわられたことは何ですか？」

まずは、商品を大和屋でしか買えないものに厳選しました。特に、下駄に必要な鼻緒と台を自分で選んでセルフカスタマイズできるのが当店の一押しポイントです。鼻緒は我々が生地から見つけてきたり、作家さんをお願いして作ったものばかりなので、絶対に大和屋でしか手に入らないものです。台も職人さんの手仕事がつまった世界にひとつの台となっています。自分だけの特別なものに出会えるのでは非いらっしゃってください。

次に、お店の半分をイベント企画スペースにできるように変更しました。きっと前来た時と次来た時にはまた違うお店にはなっています。今までに、ゆかた展・草履展・日傘展などを開催しました。何か新しいものに出会うきっかけになると思うので、それを体験しに足を運んでいただきたいです。

最後に、買い物だけじゃなくて、町の皆さんや通りかかった人がコミュニケーションをとる場になったら良いなと思っています。実は、商品棚の一部は人間が乗っても大丈夫な強度で、快適に座れる高さに設計しました。三味線の演奏会や落語の口座をやるという話もあります。下駄というものをベースにしながら、色々なことに挑戦できる場所にしたいです。



人が腰掛けられる商品棚と素敵な履物

Q4. 「リニューアルに対して、お客様の反応はどうですか？」

以前より当店を利用してくださっていた方々からは「商品の見やすさ・選びやすさがあがった」という声をいただいています。また、企画展もご好評をいただいています。さらには、学生さんといった若い層のお客様や新規のお客さまも増えました。お店としての入りやすさと認知が向上した印象があります。

Q5. 「かなりの頻度で企画展を開催されていますが、何かこだわりはありますか？」

企画展を開く上での私たちの重テーマが「今週も大和屋行かなくちゃいけない」。